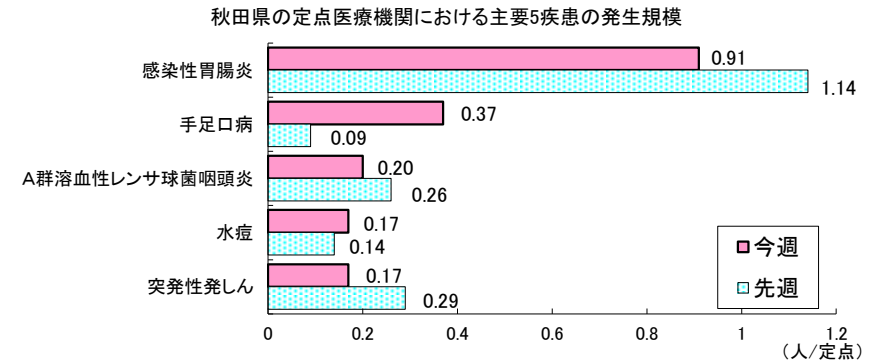




【第31週の発生動向】

< 定点把握対象疾患(週報)・前週比 >

1. 感染性胃腸炎は、県全体で20%減少しています。保健所別では、秋田市、大館、湯沢で増加、秋田中央で同規模、北秋田、能代、大仙、横手で減少しています。
2. 手足口病は、県全体で4.1倍に増加しています。保健所別では、大館、大仙で増加、由利本荘で減少しています。
3. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で23%減少しています。保健所別では、北秋田で増加、秋田中央、大仙、湯沢で同規模、秋田市で減少しています。



発生報告

< 五類定点対象疾患(週報) >

疾患名	秋田県			秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢		
	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減			
RSウイルス感染症																														
インフルエンザ																														
咽頭結膜熱	0.06	0.11	↗	0.14	0.29	↗								0.25	↗	0.25		↘		0.25	↗									
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.26	0.20	↘	0.43		↘					0.50	↗				0.75	0.75				0.50	0.50				0.25	0.25			
感染性胃腸炎	1.14	0.91	↘	2.29	2.43	↗	0.50	0.75	↗	1.50		↘	2.67	0.33	↘	1.25	1.25				1.00	0.75	↘	0.67	0.33	↘	0.50	↗		
水痘	0.14	0.17	↗		0.29	↗	1.25	0.25	↘																	0.75	↗			
手足口病	0.09	0.37	↗					1.50	↗										0.25	↘	0.50	1.75	↗							
伝染性紅斑		0.06	↗		0.14	↗										0.25	↗													
突発性発しん	0.29	0.17	↘	0.57	0.29	↘	0.25	0.50	↗	1.00		↘							0.50	↘		0.25	↗	0.33		↘	0.25	↗		
ヘルパンギーナ	0.03	0.06	↗								0.50	↗				0.25	↗	0.25	↘											
流行性耳下腺炎		0.03	↗								0.50	↗																		
川崎病																														
急性出血性結膜炎										*	*		*	*		*	*								*	*				
流行性角結膜炎										*	*		*	*		*	*								*	*				
細菌性髄膜炎																*	*													
無菌性髄膜炎																*	*													
マイコプラズマ肺炎																*	*													
クラミジア肺炎(オウム病を除く)																*	*													
感染性胃腸炎 (ロタウイルスによるもの)																*	*													

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↗」は増加を、「↘」は減少していることを示します。
「*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>

- ・二類感染症の結核が能代保健所管内から1人、由利本荘保健所管内から1人、大仙保健所管内から2人、報告されました。
- ・三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症が秋田市保健所管内から1人、報告されました。
- ・五類感染症の梅毒が秋田市保健所管内から1人、大仙保健所管内から1人、報告されました。

<全数把握疾患>

類型	疾患名	1週-30週		31週
		全国	秋田	秋田
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンゴ出血熱			
	痘そう			
	南米出血熱			
	ペスト			
	マールブルグ病			
	ラッサ熱			
二類	急性灰白髄炎			
	結核	9675	50	4
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
	中東呼吸器症候群			
三類	コレラ			
	細菌性赤痢	54		
	腸管出血性大腸菌感染症	1136	19	1
四類	E型肝炎	269	2	
	ウエストナイル熱			
	A型肝炎	84		
	エキノкокクス症	9		
	黄熱			
	オウム病	4		
	オムスク出血熱			
	回帰熱	5		
	キャサナル森林病			
	Q熱			
	狂犬病	1		
	コクシジオイデス症	3		
	サル痘			
	ジカウイルス感染症	1		
	重症熱性血小板減少症候群	42		
	腎症候性出血熱			
	西部ウマ脳炎			
ダニ媒介脳炎				
炭疽				

類型	疾患名	1週-30週		31週
		全国	秋田	秋田
四類	チクングニア熱	3		
	つつが虫病	107	8	
	デング熱	41		
	東部ウマ脳炎			
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)			
	ニパウイルス感染症			
	日本紅斑熱	136		
	日本脳炎	1		
	ハンタウイルス肺症候群			
	Bウイルス病			
	鼻疽			
	ブルセラ症	1		
	ベネズエラウマ脳炎			
	ヘンドラウイルス感染症			
	発しんチフス			
	ボツリヌス症	3		
	マラリア	14		
	野兔病			
	ライム病	12		
	五類	リッサウイルス感染症		
リフトバレー熱				
類鼻疽				
レジオネラ症		983	7	
レプトスピラ症		1		
ロッキー山紅斑熱				
アメーバ赤痢		349		
ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)		144	2	
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		904	6	
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)		17		
急性脳炎		340	4	
クリプトスポリジウム症		3		
クロイツフェルト・ヤコブ病		80	1	
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		453	3	
後天性免疫不全症候群		569	1	
ジアルジア症		14		
侵襲性インフルエンザ菌感染症		178		
侵襲性髄膜炎菌感染症		11		
侵襲性肺炎球菌感染症		1062	9	
水痘(入院例に限る)	209	7		
先天性風しん症候群	1			
梅毒	3190	36	2	
播種性クリプトコックス症	80	1		
破傷風	58	1		
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症				
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	75			
百日咳	2596	9		
風しん	85			
麻しん	12			
薬剤耐性アシネトバクター感染症	5			
指定	新型コロナウイルス感染症		18	

トピック

<蚊が媒介する感染症について>

夏は野外活動を楽しむ機会が多くなります。一方、“蚊に刺される”という不快な思いをする季節でもあります。蚊に刺されると、痒みが生じるだけではなく、感染症という重大な事態を招く場合もあります。

■主な感染症

蚊は様々な感染症の病原体を媒介しています(表)。日本脳炎以外は海外で発生している感染症ですが、海外旅行等の際に渡航先で蚊に刺され、帰国後に発症した輸入症例も報告されています。また、デング熱のように、海外で感染した人が国内で再び蚊に刺されることにより、感染が広がった事例もあります。

■予防方法

予防には蚊に刺されないことが第一です。屋外では可能な限り素肌の露出を避け、必要に応じて市販の虫除けスプレーを使用しましょう。また、蚊そのものの発生を防ぐことも重要です。蚊は、身の回りの水場を利用して増えます。屋外に放置されたままのバケツや鉢植えの水皿、廃タイヤ、おもちゃ等に溜まった水は、格好の発生源となります。周囲にこのような場所があったら、水を取り除くようにしましょう。

表 蚊が媒介する主な感染症

疾患名	病原体	主な症状	主な発生地	特徴など
デング熱	ウイルス			・重症化すると出血やショックなどを示し、死亡する場合もある。
チクングニア熱	ウイルス	・発熱・発疹 ・結膜炎・筋肉痛 ・関節痛・倦怠感 ・頭痛など	東南アジア、アフリカ、中南米など、熱帯・亜熱帯地域	・デング熱よりも潜伏期間が短く、旅行中に発症する場合もある。
ジカウイルス感染症	ウイルス			・症状は一般的に軽いが、妊娠中に感染すると胎児に先天性障害(小頭症)を起こす可能性がある。 ・輸血や性行為でも感染する場合がある。
ウエストナイル熱	ウイルス	・高熱 ・頭痛・筋肉痛 ・発疹	アフリカ、ヨーロッパ、中東、アジアなど広い地域	・感染者の80%は不顕性感染だが、まれに重篤な症状(脳炎、髄膜炎など)を示す場合がある。
日本脳炎	ウイルス	・高熱・頭痛 ・嘔吐・意識障害 ・けいれん	アジアで広く発生(国内でも西日本を中心に毎年発生)	・大部分は不顕性感染だが(発症率0.1~1%)、発症した場合、重症例や死亡例が半数以上に及び、後遺症も高率に残るとされている。
マラリア	原虫	・発熱・悪寒 ・関節痛・筋肉痛 ・嘔吐・頭痛	アジア、オセアニア、アフリカ、中南米地域	・脳症や重症貧血など様々な合併症があり、死に至る例も少なくない。 ・流行地に渡航する際は抗マラリア薬の予防内服が勧められている。

* 不顕性感染: 感染しても症状を示さないこと



【注意報・警報の発生状況】

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
注意報・警報はありません。		

■ 注意報・警報の定義

【注意報・警報の定義】

- 1) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。
- 2) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報			対象疾患	警報		
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)		基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2	1
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6	2
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1	0.1
水痘	1	2	1	流行性角結膜炎	-	8	4
手足口病	-	5	2				

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		